

# 資料

昭和三六年

## 第一次釜ヶ崎暴動

その七・蜂起終熄(長谷川)

岩田秀一 編

〔八月四日〕大阪西成の釜ヶ崎暴動は四日夜も約千六百人(大阪府警調べ)の群衆が西成署を遠巻きにして警官隊とにらみあい一時不穏な空気をかもしましたが、大阪府警の再度の強硬な武力制圧でやっと下火の兆候をみせはじめた。西成署警備本部はこの夜引き続き六千人の警官を動員、浪速、阿倍野、天王寺署管内もふくめた主要拠点に配置、西成署周辺の暴徒に先制攻撃をかけてけ散らし、新たに六人を逮捕し、これまでの逮捕者は百人を越えた。

(読売五日朝刊)

〔午後〕日本共産党大阪府委員会、大阪の朝総連各代表三十数人が府警に本部長を訪ね「西成事件は朝鮮人と日共が関連しているのではないかとみて調査させている」という安井国家公安委員長の話(四日正午のNHK放送)の情報出所について見解をただした。応対した秋山総務部長は「西成事件が日共や朝鮮人と関連のある事件とは思っていない。したがって政府、警察庁にそのような情報を

流した事実はない」と答え、同時にこの旨日共本部の志賀義雄代議士に電話連絡した。

(毎日五日朝刊)

―府警、警告ピラを張り出す「暴徒に対しては厳罰をもってのぞみます。家、自動車への放火は最高死刑、消火をさまたげたものは同懲役十年……」。地検、一日の逮捕者のうち一五人を勾留請求。

〔夕方〕釜ヶ崎銀座といわれる西成署前幅十メートル

ルの道にまたあふれはじめた。しかしその表情はやわらぎ、いままでのような氣勢や喚声はわからない。付近の立ち飲み屋、ホルモン屋台ではステテコ姿の人夫たちが「酒でも飲まん」と張り合いがない。今夜八時になったら消えんとまたなぐられるぞ」と話し合っていた。(読売五日朝刊)

〔六時三十分〕警官隊が西成署前の南海電鉄阪堺線の土堤にすわりこんだ群衆を追いちらし、実力行使第二夜の幕をきって落した。(毎日五日朝刊)

〔六時四十分〕西成署を中心として旧住吉街道を北へ約百メートル、南へ五十メートルあまりの群衆を排除した。(毎日五日朝刊)

〔七時四十分〕群衆は次第に数を増し西成署周辺および霞町交叉点附近に約一三〇〇名が蟻集し、その中西成署北方二〇〇メートルの道路にいた約四〇〇名の群衆の先頭付近より投石が行なわれたので部隊二ヶ中隊を以て直ちに警告制止したが強い抵抗もなく間もなく平静に復した。(資料①)

〔八時〕(府警本部は)西成署を中心とする主要道路の恵美須町—阿倍野橋、国道二十六号線の西四条など五ヶ所で交通をとめた。

南海電鉄阪堺線今池駅から北約二百メートルのガード下

戒する警官隊の前にいた約二百人の群衆の中からパンツ一つの小柄な男が出てきた。酔っぱらっている。男はベコリと警官隊に一礼すると、もつれる舌で、演説を始めた。

「警察の人たちよ、民衆をオチヨくるようなまねはやめましょう。われわれはみな立派な人間でして……」この男のおどけたしぐさをきっかけて群衆のあちこちから石が飛んできた。警官隊のタテにあたる。警官隊の指揮者が「かかれ」と叫ぶと「ウォーッ」という叫び声をあげて群衆になぐりかかった。不意をつかれた群衆は声をあげて逃げ散ったが、警官隊は全速力でつっ走る。ドヤに逃げ込むものや飲食店にかけ込むもの。逃げ遅れた二十数人は警棒でなぐられ血にそまって悲鳴をあげた。

第一陣の警官隊の後からライトを照らした装甲車がかつけつけ、これを先頭に警官隊はこの道路の北入り口(尼崎—平野線)まで約二百メートル追いかけて群衆を散らした。

—同じ時刻ごろ西成署北五十メートルの地点で警官隊が約三百人の群衆の投げたビールビンが港署藤川巡査(37)の胸に当たってカケラがつき刺さり警察病院に入院したほか機動隊員四人が投石で右足に五日間のケガ。暴徒五人を逮捕した。

で約五百人の暴徒がまた上り電車に投石の雨をふらせ、線路上に立って電車を止めようとしたが、これは警戒中の機動隊一個中隊が出勤してまもなく追っばらった。

二日夜からつづいたこの電車妨害に対して機動隊三十人が同駅ホームにはいり、勤め帰りにそのままホームで見物する群衆五十人を追い出した。(読売五日朝刊)

〔九時〕西成署北約百メートルで群衆と向いあった警官隊からフライヤーの火がたかれた。盛んにアジっている数人の写真をとろうという作戦。これがシゲキとなってバラバラと石が飛んだ。間髪を入れず「かかれ」の号令。逃げおくれた二、三人をとりかこみ「かえれ、かえれ」とこづく。だが中には血の気の多い警官がいて号令がかかる前にとび出して追いかけて「逃げ足の早いヤツだ」と列にもどってくる。

—西成署のすぐ裏の商店街に面したすし屋では客がチラホラする程度の閑散ぶりだった。「きょうはのんびりしたもんや。商店会からは午後九時に店を閉めるよう通達があったが大丈夫とみて店をあけることにした」と主人は手持ちぶさたな表情をもてあましている。(朝日五日朝刊)

〔九時十五分〕西成署北約百メートルの旧住吉街道を警

(読売五日朝刊)

屋根伝いに出没「群衆と暗ヤミ」の陰のゲリラ

—小石やビンの破片がひんびんと飛んでくる。そのスピードからみて投石場所は警官隊の位置から案外ちかく正確なので、投光器ですぐ照らしてもそれらしい影はつかめない。やっとその正体をつかんだ。ゲリラは安宿やアパートの屋根にひそんで攻撃を加えてきたのである。歯ざしりする警官隊をしり目に屋根から屋根を飛び伝い警官隊をあざけるようにときどき投石していた。この黒い影法師には警官隊もいらいらさせられた。たとえ一個でも投石があればそのあたりにいる群衆を全部暴徒とみなして攻撃する。頭をなぐられたり胸をたたかれて悲鳴をあげるのはヤジ馬がほとんどで本物の犯人は巧みに逃げ回っているのだ。(読売五日朝刊)

〔九時三十分〕装甲車を先頭に機動隊一個大隊が西成署を出発「暴力から西成の町を守るため警察は全力をあげています。ご協力下さい」とスピーカーで群衆に呼びかけながら騒ぎの舞台となった旧住吉街道—霞町交叉点—今池町など夜の西成のメインストリートを一時間ぐらい示威行進したが、このときは投石もバ声をあげせるものもなく、まったくの平和行進。(読売五日朝刊)



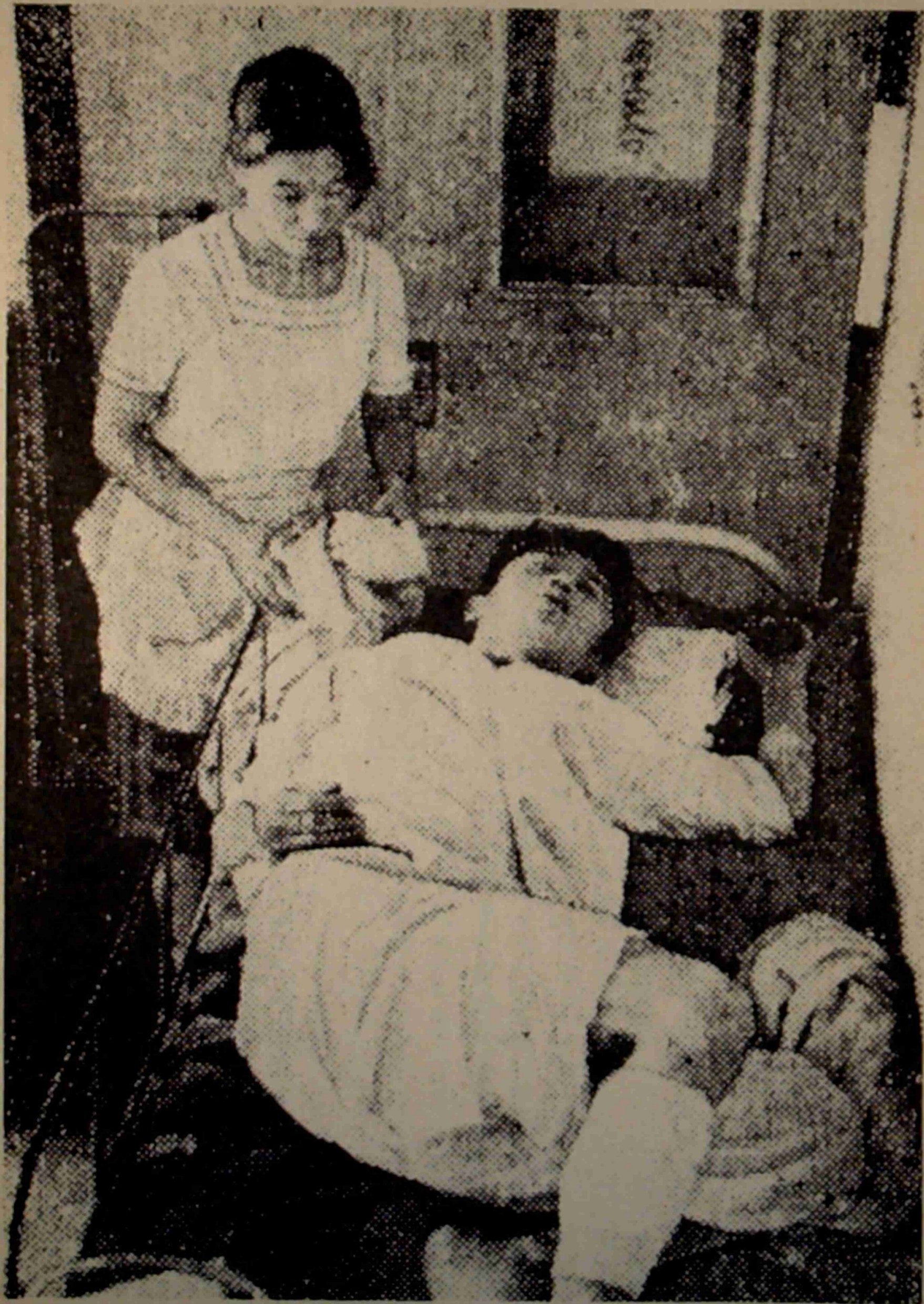
群衆に家へ帰るよう呼びかける警官隊（四日夜9時30分  
 尼崎―平野線の西四条―阿倍野間で）朝日五日朝刊

〔午後十時〕西成署を中心に半径三、四百メートルにお  
 たって、暴徒は全く見当たらなくなった。  
 警官隊の圧倒的な実力行使でその後はまとまった暴徒も  
 見当たらず五日午前零時にはジャンジャン横丁入り口付  
 近にヤジ馬が集まっただけで暴力事件はほとんどなかっ  
 た。また西成署北の十字路でも警官隊の再三の説得で同  
 一時には人かげもまばらになり警官隊は同一時半、重要  
 配置場所から引揚げた。  
 （毎日五日朝刊）

### あわてて病院へ―検挙の名簿から消す？

大阪の、西成事件で警棒でなぐられた男が重体にな  
 ったため警察があわてて検挙者の名簿からまっ殺、アル  
 中の行路病人にさしかえて救急車で病院にはこんだので  
 はないかと問題になっている。

四日午後十時四十分ごろ、大阪市西成署北約百五  
 十メートルの十字路付近で警官隊が退去の説得に  
 応じない群衆に実力行使した際、石を投げた（西  
 成署本部の話）若い男が暴力行為現行犯で警官隊  
 につかまり、西成署に連行された。同署ではこの  
 日の検挙第三号として調べたところ、男は西成区  
 鶴見橋通一の一、クツ修理工、小谷武彦さん（27  
 とわかったが、小谷さんは連行後間もなく苦しみ



負傷した小谷さんを看護する妻かつみさん（天王寺病院で）毎日5日朝刊

出し、同署では大阪市消防局に連絡、五日午前一時ごろ消防署の救急車が小谷さんを天王寺病院に天王寺区元町一七〇に運んだ。ところが、市消防局の調べでは西成署の救出要請は「アルコール中毒で道端に寝ていたので運んでほしい」というものだったという。また警備本部の報道陣に発表する検挙者の名簿にも小谷さんの名前が一度書かれて消されている。

一方、病院へは搬入の約二十分前西成署から「脳内出血の疑いのある患者を頼む」という電話があった（夜警の西川竹一さんの話）。診察した当直外科医の横田弥治男医師は「鈍いものであちこち殴られたあとがあり、二、三ヶ所皮下出血があった。鼻血も出ており、一時危険だったが、五日朝は危機を脱し、このまま回復するだろう」といっている。

西成署は五日午前三時ごろ、パトカーで警官二人を派遣、約十分間病状を聞き（西川さんの話）さらに同十時半ごろ府警本部捜査四課の永井警部補を同病院へ派遣、前後の事情を聞いていたなどから、警察側が一たん検挙したもの、警棒による傷が意外に大きそうなので、西成事件と無関係の行路病人に仕立てたのではないかとの疑問

〔五時〕警備本部はいっせいに全部隊を大幅に減らした。西成署に機動隊一個中隊、浪速、阿倍野、天王寺の各署は署員だけ残して応援にきていた残りの五千人もあまりは全部夜にそなえて午後三時まで自宅待機という減らしよう。それほど警備本部は二日間の「武力制圧」の効果は自信満々で、引きあげる警官隊の顔には積もった疲労を吹き飛ばすような満足感があふれていた。

〔朝〕カンカン照りの釜ヶ崎は平静そのもの。警官隊は午前五時すぎ全員引き揚げ、前日までの西成署前の立ち番警官の姿は一人もみえない。初日の投石で破れたままになっていた西成署玄関の窓ガラスをのんびり入れ替えている風景や、子どもをおんぶして立ち話しているおかみさんの表情からは、その道路で明け方まで群衆と警官が向い合っていたことは想像もできない。

（朝日五日夕刊）

。最高検田中刑事部長現場視察

。山本府警本部長、鎌田知事室長に会い、

行政面での応急対策を講じるよう要請。

。「西成対策協議会（市、府、府警）」第

一回会合開かれる。

。地検、四八人を勾留請求。

が強くなっている。

なお小谷さんは腰、足にも打撲傷を負っており、着ていた白い開キんシャツとズボンにはほころび、クツの足あとがあちこちに刻されている。

袋だたきにあつた——小谷さんの話

——子供がカゼをこじらせて重体なので仕事先からいそいで帰る途中、群衆の中にまきこまれ、警官隊が追いかけて来き逃げ遅れた私は路地でなんべんもフクロだたきにされ、足げにされた。警察へ連れて行かれ、石を投げたといわれ、気がついたら、病院に来ていた。酒はのまない。

片岡大阪府警刑事部長の話

——重傷者がいたので釈放のかたちにして病院へ運んだとは聞いていたがくわしく報告をうけていないのでわからない。もしそうした事実があるなら残念だ。一時のがれな手段をとらずに正々堂々とやればよいと思う。早急に実情を報告する。

（毎日五日夕刊）

〔五日午前〇時〕日原府警警備部長記者会見

「煽動者を根こそぎ逮捕するまで警戒体制をゆるめぬ」

〔〇時三十分〕群衆全員解散。

（資料①）

。社会党釜ヶ崎事件合同調査団、視察。

〔午後五時〕大阪府警のヘリコプター「あおぞら」が釜ヶ崎上空に出動。約一時間にわたって「暴徒の群れに加わらないよう」呼びかけた。

（朝日六日朝刊）

〔五日夜〕の大阪西成、釜ヶ崎はふだんの静けさにもどった。大阪府警本部は前夜と同じく警官約六千人を配置、西成、浪速区内の危険区域にピケをはり警戒体制をとる一方、ヘリコプターで空から「平和」をよびかけた。しかし午後五時すぎから七時半ごろまで激しい夕立ちが降ったためいつも午後六時ごろになるとどこからともなく現われる、暴徒の姿はまったくみられない。商店街はネオン街も明るく客足も多い。町の人たちははるか北の夜空に見える桜宮公園の花火に見いるゆとりを取り戻した。

（読売六日朝刊）

〔午前〇時〕浪速区新世界通天閣下で待機していた浪速

署員約二十人に通りかかった二十五、六歳の男が射的場用のセトモノ人形を投げつけたので公務執行妨害現行犯でつかまえた。「東京山谷からきた」といっている。

この夜の逮捕者は、六日（午前二時）までに住所不定、無職、杉野盛孝（21）が暴力行為の疑いで緊急逮捕され、

また同江川光義(35)が西成署横で警察の広報ポスターをはがし軽犯罪法違反の疑いで逮捕されるなど個人的な動きの四人。負傷者は事件発生いらいはじめてなかった。

(毎日六日朝刊)

〔六日〕町はすっかり落ちつきをとりもどした。警察官は五千人(注)に減って、集団パトロールに重点をおいた。

(読売九日夕刊)

〔七日〕涼しい夜。警官隊も住民もけわしい表情が消え、肩をたたいて話しあったりお茶のサービスなどがふえてきた。警官隊は四千人(注)にへった。(読売九日夕刊)

京都、兵庫各府県警に応援要請を解除。

府警監察官室、暴動のきっかけとなった交通事故処理をめぐっての警察官の措置に落ち度はなかったと結論(本誌4号参照)。

水崎町派出所放火容疑者など四人逮捕。逮捕者はこれで百十一人、勾留八十四人。

〔八日〕

近畿管区警察学校生徒の応援要請解除。

府警捜査本部は機動隊二個小隊約六十人を動員、暴力団山田組事務所を捜索、副組長川西三男(28)を殺人未遂容疑で逮捕。

〔九日〕

府警捜査本部、山田組組長李行善に対して同組組員に対する暴行容疑で逮捕状をとり、全

注 資料①によると、六日は約五三〇〇名、七日約五二〇〇名、八日四二〇〇名となっている。

故死がきっかけで自然発生的に暴動したと見られて、同捜査本部は本組長の行方追及に全力を注ぎ、



李行善

につぎつぎと、西成の集団暴行事件は

徒は、組織として最も手配師グループ、口から機を回し、暴力団の

国に指名手配。

〔十日〕

府警片岡刑事部長「捜査経過」を発表。「暴動第一夜から釜ヶ崎一帯をナワ張りとする暴力手配師山田組が巧みにこの騒ぎを利用し、押取組織である山田組に対するうらみをすりかえて目の上のこぶである東田町派出所を襲うよう仕向けた」と発表。

〔十二日〕

警察庁は事件をきっかけに検討していた「交通事故の処理要領」がまとまったと発表。

〔十五日〕

灘尾厚相、閣議で釜ヶ崎の環境整備について報告。

〔十七日〕

山田組組長李行善、上部団体の土井組に立ち

寄ったところを逮捕される。

〔十八日〕

逮捕者数百三十六人にのぼる。

〔二十一日〕

大阪地検六十三人を起訴、十三人の少年を家裁送致。

〔三十一日〕

「西成分室」開設に先立ち府警捜査本部は機動隊一個中隊九十人の応援を求め、山田組事務所を兇器準備集合容疑で捜索、組員五人を逮捕。

〔九月一日〕

府労働部「西成分室」を開設。(本誌第2号参照)

〔三日〕

府警本部に設けられていた警備本部解散。

〔一三日〕

釜ヶ崎事件初公判。これまでに逮捕者百五十四人、八十六人を起訴、少年二十三人が家裁送致。

〔三十日〕

逮捕者百七十四人、百九人を起訴、少年三十四人が家裁送致。捜査線上になお三十人が残り、このうち十一人に逮捕状が出されている。

(資料②)

〔十月十三日〕

釜ヶ崎事件初判決。大阪地裁松田裁判官は「社会を混乱におとし入れた罪は重い」として、投石したとして公務執行妨害罪に問われていた二人にそれぞれ懲役五月、同四月の

実刑判決を言い渡した。

(了)

〔注〕資料①は、昭和三十六年八月九日警察庁作成の「西

成集団暴力事件の概要」と題されるもの。

資料②はガリ刷B5版十三頁の無題のもの、正確にはどの官庁作成か不明である。

### △付記▽

連載を今回で終えてしまふのはいささかさびしい気もする。誰かが「もっと続けたらいいのに」と言ってくれ

る事を心の中で思う。多くの人から意見をもらい、途中から写真を入れるなどしたため、今となっては載せられない写真や資料が多くなる。これらは別の機会にでも公開したいと思っている。